



福島県いわき市 ●

株式会社いわきスポーツクラブ いわきFCパークを拠点に スポーツの力で復興に貢献





永続的な支援のために 誕生したいわきスポーツクラブ

「サッカーは勝つことがすべてではなく、試合という商品を見せる以上、負け方も大切。たとえ負けても、お客様にチケットを買ってよかったと思ってもらえるようにしなければなりません」。そう持論を展開するのは、元Jリーガーで、湘南ベルマーレの社長も歴任した、株式会社いわきスポーツクラブ、いわきFCの代表取締役、大倉智氏だ。

いわきスポーツクラブは2015年12月設立。当時福島県社会人リーグ2部のいわきFCの運営を引き継いでいる。現在、いわきFCは東北社会人2部リーグ南に所属している。

いわきスポーツクラブが誕生したきっかけは、親会社のドームが物流センターの用地を探していたときに東日本大震災が発生し、一時的な支援ではなく、永続的な支援を行うことで地域の復興につなげるという目的で、いわきに物流センターを建設することになったことだ。

ドームの安田秀一社長と学生時代からの知人であった大倉氏は、安田氏と25年ぶりに再会



いわきFCのトップチームなどのユニフォーム

し、思いを共有。いわきスポーツクラブ代表取締役として、いわきFCの運営と、物流センターに隣接する商業施設併設のクラブハウス「いわきFCパーク」の運営に当たることになった。

5カ月で約20万人の来場者 順調ないわきFCパーク

「いわきFCパークを設立する際にこだわったのは、いかにファシリティ(設備)ビジネスを回すかということです。なぜなら、いくら立派なビジョンがあっても、運営がきちんとできずにいると、事業が継続できず、すべてがストップしてしまう危険性があるからです」と大倉氏。そこで、いわき市にサッカー専用スタジアムを作るという大きな目標を設定し、「その第一歩として、ここを商

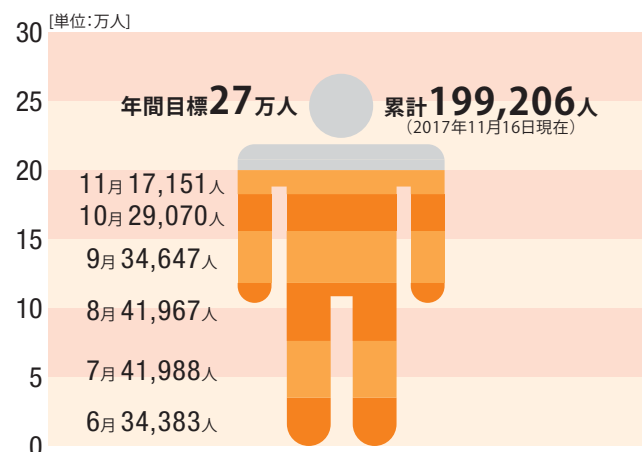
■ 企業情報

社名 株式会社いわきスポーツクラブ
業種 スポーツクラブ運営
代表取締役 大倉智氏
所在地 福島県いわき市常磐上湯長谷町釜ノ前1-1
TEL.0246-72-2511 FAX.0246-72-2575
HP.http://iwakifc.com

いわきスポーツクラブは2015年12月に設立。スポーツブランド「アンダーアーマー」の国内総代理店である株式会社ドームを親会社に持つ。運営するいわきFCは、2017年に天皇杯の2回戦でJ1のコンサドーレ札幌を破る金星をあげた。



■ 2017年度来館者数



今だから話せる
成功の舞台裏

被災地外からの進出事例

海外への挑戦事例

事業承継の成功事例

革新的スタートアップ事例



選手たちのスパイクが並ぶスパイクルーム

業施設併設にし、テナントに賃貸してお金を生むこと、地元のお客様が食事や買い物も楽しめる場所にするという2点を実現させたわけです」と解説する。いわきFCパークには、選手用の施設のほかに、5軒の飲食店などがある。同パークは食事もトレーニングもできるため、スポーツの合宿施設としても活用されることを見込んでいる。

いわきFCパークの来場者数は、オープンから5カ月あまりで、年間目標の27万人に迫る約20万人を数え、目下のところファシリティビジネスは順調に回っている。



予想を上回る来店客で賑わう館内の飲食店

「経済」「健康」「人材」を これからのキーワードに

その一方で、いわきスポーツクラブのスタートから3年を迎えた今、先にあげたビジョンを整理していくタイミングが来ていると大倉氏。今後は、地域のビジネスに関する「経済」、地域の人の「健康」、子どもの育成や雇用創出の「人材」という3つのキーワードに基づいて活動したいとしている。

「健康」というキーワードを新たに掲げるのは「福島県は肥満傾向児の出現率が全国の割合を上回り、成人の糖尿病患者数も多くなってい



試合には多くのサポーターが集まる

るからです」と大倉氏は言い、「そんな健康面での県民の課題に向き合う必要があると思っています」と説明する。すでにいわきFCパークでは、子どもたちを対象に無料のスポーツレッスンを開講していて、「大人やシニア層に向けたプログラムも実施したいですね」と、大倉氏はこれからの可能性を語る。

また、いわき市はこれまで多くのアスリートも輩出しており、大倉氏は「スポーツの才能豊かな若い人材は少なくないはず」と見ている。し



ユニークな外観のいわきFCパーク

かし、「残念ながらこれまでには活躍の場所がないことから、優秀な若い子どもたちが地域の外へ流出していました」と大倉氏は指摘し、「人材」をキーワードに、「未来への投資として、若い才能をどう育てていくかが、これからのチャレンジですね」と展望する。

いわきFCには、子どもたちが対象のアカデミーがあり、「ここでスポーツができるから、いわきにとどまるという子どもが増えているようですし、東京や神奈川などから来ている子もいます」と大倉氏は話し、スポーツによる人材育成の可能性は大きいとしている。

いわきでの取り組みを 県全体に広げていきたい

「いわきの復興への思いは熱い。新しいいわきを何とかして作りたいという思いを強く感じます」と大倉氏。一般の市民の間にも、いわきスポーツクラブの認知、ビジョンへの共感が広がっているという。

大倉氏は「市民のサポートがないと、スタジアムをつくるという夢は追えないでしょう。その点、いわきの皆さんの復興への思い、スポーツへの理解や熱意には大きいものがあります」と



「スポーツの力でいわきに貢献したい」と大倉氏

し、「これからはいろいろな取り組みが可能ですね」と、今後に手応えを感じている。

いわきスポーツクラブでは、さまざまなスポーツに関する取り組みを継続的に展開し、いわき市のみならず、県全体に広げていきたいとしている。「そのためにも、いわきFCパークという場があることが重要です。子どもたちが成長し、進学や就職で一度は外へ出ていったとしても、何か誇りに思えるような場があればまた地元に戻ってきたいと思えるはずですから」と大倉氏は話し、そんな気持ちを醸成していくことも含めて、「スポーツの力でいわきに貢献したい」と力説する。